

「秋田大学みらい創造基金学生海外派遣支援事業」帰国報告書

記入日： 2019 年 10 月 23 日

所属： 教育文化 学部／研究科 地域文化 学科・課程・選修／専攻 3 年

氏名： 秋林 鮎美

派遣先大学名（国）国立ハンバット大学（韓国）

在籍身分：交換留学

派遣期間：10 ヶ月

渡航年月日：2018. 8. 29

帰国年月日：2019. 7. 13

○派遣先大学における授業等の履修状況

【1学期】時間割（ 2018 年 9 月 ～ 2018 年 12 月）					
	9:00～12:00	10:00～13:00	14:00～17:00	～	～
月		日本小説とストーリーテリング	集中韓国語(中級)		
火			韓国語 読み書き(中級)		
水	キャブストーンデザイン (聴講のみ)		集中韓国語(中級)		
木	韓国語 聞く・話す(中級)		韓国語 文法		
金					
土					

【2学期】時間割（ 2019 年 3 月 ～ 2019 年 6 月）					
	9:00～12:00	14:00～17:00	～	～	～
月	集中韓国語(上級)				
火	韓国語 読み書き(上級)				
水	集中韓国語(上級)	日本文化(1)			
木		韓国語 聞く・話す(上級)			
金		日通訳練習			
土					

○研究・学習概要及び今後の勉強計画

留学中に受けた授業は韓国語のものが多かったが、週に2回ほど日本語学科の授業も受講した。そのおかげで、韓国語の向上や韓国の文化、習慣を学ぶことはもちろんだが、そのほかに日本についても改めて学び、知る機会にもなったのがとてもいい経験だったと感じた。韓国語の授業は、読み書きやリスニング、スピーキング、文法やそれらを全て行う総合的な授業などがあった。先生方が優しく、丁寧に教えてくれたおかげで難しくはなかった。むしろ学部の授業を聞く方が難しい単語も多く、聴きがいがあったように感じた。その学部の授業を通して、日本語の難しさ、日本独特の文化、韓国との違いを知ることができてとても興味深かった。講義を聞きながら日本のこんな部分が優れているとか、韓国のこの部分は日本や秋田でも活かせるのではないかなど多くのことを考えるきっかけになった。また、大学が位置するテジョンを活性化するための学部の授業もあったのだが、それがとてもいい経験になった。テジョンについて知ることもできたし、日本や秋田の活性化にも活用できるようなアイデアもあり、こういったことを授業でできるのがいいなと思った。ここで得た考えや体験をこれからの卒業研究の題材やひいては将来の仕事をする上で役立てていきたい。

○生活面について

生活面については、私は特別不便だと感じることはなかった。現地の学生たちと友達になって、たくさんのを助けてくれて、教えてくれたおかげだと思う。また先生方も気にかけてくださる先生方が多くて韓国の情の深さを感じた。生活環境や習慣・マナーに関しては大きな違いはなかったのですが、強いて言うならば、やはり年齢による上下関係は日本人よりはっきりしているなど感じた。あとは、食生活に関して、辛いものが多いのとお酒を飲む機会が多かったので、それらを好まない人は少し大変な部分かと思う。

○その他留学全般にわたる感想

今回の留学を通して、得たものはたくさんあったが、韓国で出会った人々が一番の成果ではないかと思う。海外という慣れない地でも不便を感じず楽しんで留学生活をできたのは人々の助けがあってこそだし、韓国で出会った友達はみんな一生付き合っていきたいと思う人ばかりだった。現地の人だけでなく、留学生たちとの交流を通して、視野も広がったと感じた。今回の留学を通して経験したことは一生忘れられないし、これからの人生に大きな影響を与えてくれると思う。

○渡航費補助について

今回の留学は自分で貯めた資金以外にも補助金をいただいて行くことができた。お金に余裕がなかったので少しでも補助していただけて本当に助かった。補助して良かったと思えるような人材になって、恩返しができたらと思う。



ハンバット大学で留学生たちが主に授業を聞く国際交流院の中
(建物が新しく綺麗で、講義室以外にもカフェや小さな図書館などもある)



友達みんなでお酒を飲んだ日
(初めて韓国の飲酒文化を体験した)

(様式2)



ハンバット大学の文化祭

(学科ごとに酒店を出してステージでは有名な歌手が歌っている)